

令和6年度 東大和市立第五中学校 授業改善推進プラン 教科名 **英語科** 授業担当者 山崎、板倉、佐藤航

〇〇科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

「主体的・対話的で深い学び」の実現、1人一台端末の効果的な活用

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な改善策 （「主体的・対話的で深い学び」における）	手だての実施時期	年度末評価（2月）
第1学年	- 授業中の活動や発話など積極的に取り組むことができるが、家庭学習習慣がついていないため、学習内容が定着しない。 - 教科書の本文や予め用意された英文を読むことはできるが、即興のやり取りが苦手である。	- 毎時帯活動で即興的な会話活動を行う。単語練習・文法演習を家庭学習でも行い、家庭学習で覚える習慣をつけさせる。 - オンライン英会話を活用し、即興のやり取りの練習を行う。 - 毎時書く活動を取り入れていく。	- 毎時 - 適宜	- 帯活動で繰り返し即興的な会話や英作文の指導を行うことができた。 - 毎授業で前時までの復習を取り入れた。 - オンライン英会話を活用して既習の知識を活用して会話をすることができた。
第2学年	- 話す活動は積極的に行うことができる。 - 授業中の発言が多い。 - 単語力がない。 - 英語そのものを苦手とする生徒が限定されてきている。	- 毎時帯活動で40語の単語活動、4時間毎に小テストを実施することで、単語を覚える習慣をつける。 「話すこと（発表）」を学期に一度行う。 - 毎時まとまりのある英語「書く」活動を行う。 - オンライン英会話を活用し、「聞くこと」「話すこと（即興のやり取り）」の練習を行う。	- 毎回 - 適宜	- 毎時帯活動で単語学習指導を行い、単語を習得する習慣がついた。 - 毎時の授業で、前時に学習した内容を復習するために、英作文に取り組んだ。 - オンライン英会話を活用し、既習文法を使った会話練習を行うことができた。
第3学年	- 話す活動は積極的に行うが、書く活動に関しては苦手意識を感じている生徒が多い。 - 授業中に頑張って発言する生徒は多いが、自発的に家庭で地道に単語や文章を書いて覚える生徒は少ない。	「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の5領域について、授業で繰り返し指導を行う。 - オンライン英会話を活用し、即興のやり取りの練習を行う。	- 毎回 - 適宜	5領域について、授業で繰り返し指導を行うことができた。 1つのテーマについて短い英文で自分の考えを書く活動を継続的に行うことで、書いて覚えようとする生徒が増えた。

■ICTを活用した授業における改善策

1年 }
2年 } 一対一のオンライン英会話で活用、発表資料のスライド作成、教科書本文のリテリング・リプロダクション活動
3年 }